平成24年度

トゥール市青少年親善研修生
派遣報告書

平成24年8月20日(月)〜9月2日(土) 14日間

Takamatsu International Association
公益財団法人 高松市国際交流協会

目　　次

1. 日程 ……………………………………………… 1

2. フォトギャラリー ………………………………… 3

3. 親善研修生　報告書　I

香川大学　農学部４年　宮本　彩加

日誌・活動記録 ……………………………………… 5

感想文「キセキ」 …………………………………… 19

4. 親善研修生　報告書　II

香川高等専門学校５年　塩田　誉宙

日誌・活動記録 ……………………………………… 21

感想文「いつか、また会う日まで」 ……………… 33

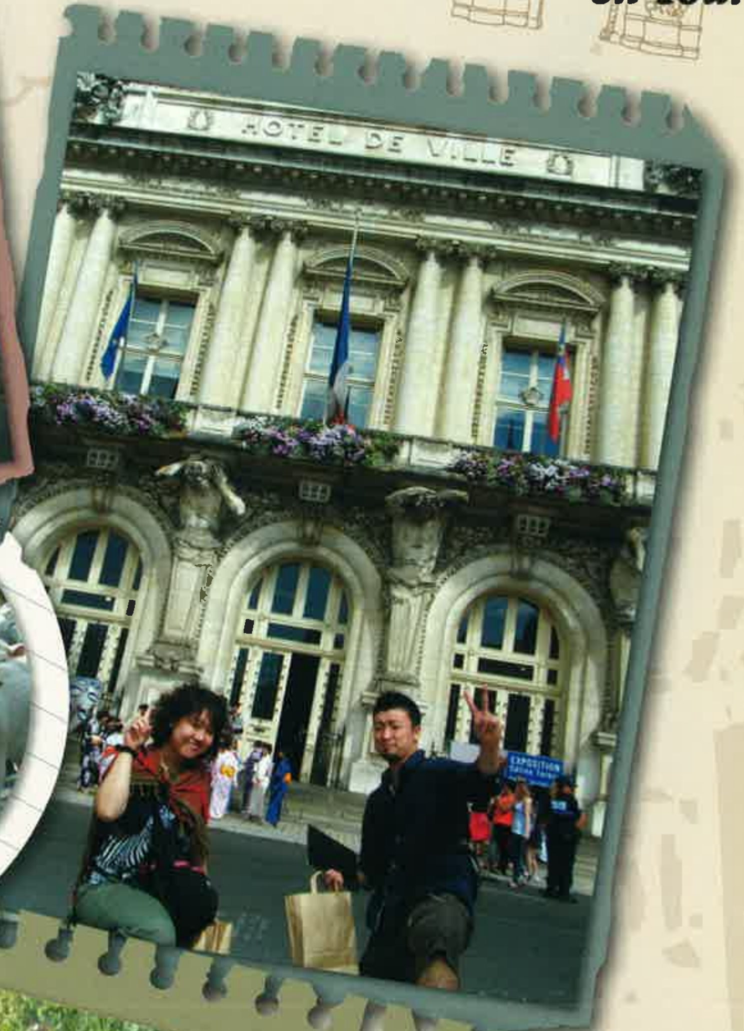
平成２４年度　トゥール市青少年親善研修生派遣事業日程

日　時	時　間	内　容
8月２０日（月）	19:15 20:35	ＪＬ１４１４　高松空港出発 羽田空港到着
8月２１日（火）	0:40 6:20 8:19 9:59 10:00	ＪＬ０４１　羽田空港出発 シャルル・ド・ゴール到着 ＴＧＶ５２００　シャルル・ド・ゴール2出発 サン・ピエール・デ・コール駅到着 サン・ピエール・デ・コール駅お迎え
8月２２日（水）	9:30 16:30	市役所前集合，徒歩でトゥール市観光 Ｊ．Ｊ広場からトゥール駅，大聖堂，コルベール通り プリュムロー広場，昼食，レ・アール見学，市場見学 学院の生徒によるアルドゥワンベーカリーの紹介 トゥーレーヌ学院訪問
8月２３日（木）	9:00 19:00 - 20:00	アンボワーズ城集合 アンボワーズ城，クロ・リュセ城，昼食，シュノンソー城 最高司令官庁舎集合，食前酒
8月２４日（金）	9:00 9:40 - 10:00 11:00 15:00	職人博物館集合 中世（１３～１７世紀）の通貨について学ぶ 市役所前集合（学院の生徒と共に） 友達と自由に昼食 ロワール河沿岸の野外レストランにて交流
8月２５日（土）	 19:00	自由行動 アイスホッケー試合観戦（スポーツ会館）
8月２６日（日）	 11:00	自由行動 あずまやでの麦打ち祭り
8月２７日（月）	 14:00	農場訪問 ワイン酒蔵見学
8月２８日（火）	9:00 - 9:30 15:00	市役所公式訪問 （宮本さん）国立農業研究所見学
8月２９日（水）	10:00 14:30 - 17:30	大劇場見学 昼食 （宮本さん）ロワール河沿岸の野外レストランにてゴミ分別活動に参加 野外レストランで最後の夕食懇談会
8月３０日（木）	8:11 9:24	ＴＧＶ８３１０　トゥール出発 モンパルナス駅到着 パリ市内視察
8月３１日（金）		パリ市内視察
9月１日（土）	11:00	ＪＬ０４２　シャルル・ド・ゴール出発
9月２日（日）	6:00 7:45 9:00	羽田空港到着 ＪＬ１４０３　羽田空港出発 高松空港到着

Les photographies de souvenirs

Le 20 août~le 2 septembre 2012

en Tours



親善研修生　報告書　I

日誌・活動記録

香川大学　農学部４年　宮本　彩加

8月20日（月）　出発

18時に高松空港に集合し、19時15分の飛行機で東京羽田に出発。初めての親善研修生ということで、緊張とプレッシャーを感じながら飛行機に乗り込んだ。東京までのフライトはとても短く、すぐ羽田に着いた。国際線ターミナルへは専用のバスに乗った。荷物は高松からパリのシャルル・ド・ゴール空港まで届けてくれるのでとても移動は楽であったが、手荷物が重かったので、次回は手荷物を少なくしたいと思った。チケットはすでに持っていたので、国際線ターミナルに着いた後も特にすることはなく、お腹がすいていたので、すぐに二人でご飯を食べた。日本を離れるので、最後の晩餐として日本そばを食べた。少し休憩して、出国手続きをし、搭乗口まで行った。22時には搭乗口に着いていたが、免税品を買うこともなく、ずっと席に座って待っていた。途中JALの社員さんが「飛行機が飛ぶまで」の子ども向け講座を開いてくれた。地上の飛行機の整備について学び、大学生の私にとってもとても面白かった。質問をしようかと思ったが、ここは子どもたちに譲ろうと思った。パートナーの誉宙君とたくさん話したが、内容はあまり覚えていない。搭乗時間になり、飛行機に乗った。無事出発した。出発直後に日記も書いた。24時だったので、眠く、すぐに寝た。狭い機内で精神的にも肉体的にも疲れたが、途中軽食やドリンクをもらいながら過ごした。トイレに気軽になかなか行けなかった。通路側の席を後輩にはお勧めする。しかし、機内からの眺めは最高であった。ほとんど寝ていた私とは違って誉宙君は、ほぼ寝ずにずっと映画を見ていたらしい。私は、到着4時間前に提供された朝食（日本スタイル）を食べてから、「宇宙兄弟」の映画を見た。しかし、時間が足りず、全部見ることができなかった。11時間にも及ぶフライトは予想通りとても疲れた。予定通り6時にシャルル・ド・ゴール空港に到着した。

8月21日（火）　トゥール到着

『到着記念』

空港はとても広く、何度も道に迷った。到着出口に出るまでは、”Arrival” を目指して移動した。途中モノレールに乗り、終点まで行き、入国手続きを行った。列はEU国とそれ以外の国（All passport）に分かれていた。特に質問されることなく、手続き後、荷物”baggage claim” を目指した。予想以上に遠かった。カバンも無事パリに着き、荷物を持って出口に向かった。出口を出た瞬間に様子が変わった。黒人のいかつい人がたくさんおり、ヨーロッパの空港は治安が悪いと聞いていたので、スリには最善の注意を払った。しかし、全くTGVの駅が見つからずとても焦った。結果は、出口からまっすぐ直進し、エスカレーターで一度上り、しばらく歩くとTGVの駅が見つかった。エスカレーターを降りると緑の

機械があったが、これは刻印の機械ではなく、チケット販売機であった。ホームの確認は電光掲示版を見て確認し、時間が近づいてきたらホームを目指した。ホームに黄色の刻印機が存在した。一度うまく刻印ができなかったが、別の刻印機を使うとうまくいった。荷物のタグも置いてあったので、よく分からなかったが付けておいた。後から聞くと、本来は名前と住所を書くべきだったらしい。TGVを待つ間にアフリカから帰ってきたフランス人の青年とも会話をした。TGVが到着したが、自分たちが待っていた場所とは予想以上に離れており、走って移動した。無事TGVにも乗車でき、スーツケースは連結部に置き、ゆとりを持って座ることができた。車内はとても静かでびっくりした。あまりうるさくならない程度に二人でフランス語の自己紹介を練習した。駅を出てすぐに草原が広がり、農業大国フランスの姿を垣間見ることができた。

『ホストファミリー』

1時間半ぐらいでサン・ピエール・デ・コール駅に到着した。到着すぐにボランティアでお手伝いをしてくれた麗子さんが声をかけてくれた。駅にはトゥール市国際交流・自治体交流課長のアミローさん、ダビットさん、コーディネイターの伴さん、アリスちゃん、トーマくん、ホストファミリーたちが迎えに来てくれた。とにかく着いた時のトゥールは暑かった。異常気象と言っていた。着いてすぐに写真を撮った。みんなきらきらしており、とても優しかった。自己紹介をし、疲れていることもあり、すぐホストファミリーと解散した。私のホストファミリーはホストマザーと娘のリラが迎えに来てくれた。「何がしたい？」と聞かれたので、「シャワーが浴びたいです」と答え、家に着いてからバゲットとオレンジジュースを頂き、すぐにシャワーを浴び、昼寝をした。3時ごろに目が覚め、サラダを頂き、それから双子のリラとモードと日本について、国際結婚、フランスの就職事情について話した。リラとモードはとても韓国と日本について興味を持っており、2カ国の違いについても話し合った。韓国人の友達は国際結婚を許されていないと言っており、日本では昔はそれほど国際結婚をしている人がいなかったが、今はそこまで反対されてないなと思い、日本と韓国の時代の流れを感じることができた。その後に、3人で公園に行き、芝生に座っていろいろなことを話した。2人は日本の映画・ドラマが好きで、特にスタジオジブリ作品の素晴らしさを語ってくれた。日本人でも理解するのが難しいジブリ作品を監督の意図を考えながら見ており、感銘を受けた。公園で話して入ると、知らない人からジュースをもらった。これはフランスでもまれなことらしい。私がフランス語を習いたいと言ったので、たくさんの言葉を教えてくれた。とてもうれしかった。公園の散歩から帰り、晩御飯を食べた。最初のご飯はフランスの郷土料理である、キッシュだった。初めて食べたが、ニンジンや玉ねぎなどが入っており、タルトみたいでとてもおいしかった。ホストファザーも気さくな方で料理の説明や、フランスの歴史について話してくれた。初日だったので、早めに就寝した。

8月22日（水）　市内散策

今日は一日市内観光であった。朝家から歩いて市役所まで行った。現地の学生も一緒に散策した。市役所、駅、劇場、大聖堂などの説明を受けながら歩いて街を歩いた。ロワール川に面しているトゥールは、より南に発展しようとする願いから、南に向いている建物がたくさん存在した。途中マルシェに寄った。本来のマルシェは農家からとれた新鮮な野菜などを売るところだが、近年では、スーパー

で買ったものを高く売ったりしているところも存在するらしく、すべてが新鮮というわけではない。日本のようにまだ、産地や生産者の顔が見えるというシステムはできていなかった。日本の食に対する安全対策の巧妙さを実感した。途中で、麗子さんの子どもの、みりえちゃんと日本からパティシエになるために留学をしている亮太さんとも合流した。お昼は市役所近くのカフェで食べた。約2時間かけてゆっくり頂いた。時間をかけて食べるのがフランス流で、日本ではあまり体験したことがなく、満腹中枢を刺激された。フランスでは、お昼にたくさん食べる習慣があり、ほとんどの店はお昼に店をしめて、また開店していた。日本はお客様命の接客だが、フランスはきちんと従業員の気持ちも考えてくれるので優しい国民性だと感じた。昼食後は、伴さんや亮太さんが通っていた語学学校の見学を行った。この学校は世界80カ国から生徒が訪れ年間2500人の生徒が通っていた。1週間の短期間から1年以上の長期間まで学ぶことができ、学費はカナダで英語を学ぶよりかなり安いと感じた。学校卒業後のプランも支援してくれ、とてもいい学校だと思った。語学学校見学終了後解散となった。街散策中は現地のフランス学生と話をした。誉宙君はとても会話が弾んでおり、とても楽しそうに話していたが、私はなかなかしゃべることができず、とても苦しかった。日本の（マンガやアニメの）ことをほとんど知らず、英語も自信がなくなりとてもつらかった。本当に情けなくなり、ますます話しづらくなっていったが、そんな私にも笑顔で話しかけてくれる現地の学生さんは、とっても優しかった。人の温かさを感じた。そんななかでも誉宙君のホストマザーと原発の話しができたのはとても楽しかった。緊張と不安でいっぱいだったので、最後にホストファミリーが迎えに来てくれた時は安心した。家に帰って英語もフランス語も分からず、今日なかなか話せなかったというと、フランス語を教えてあげるといって励ましてくれた。家では原発の話、日本の就業スタイルなどを話した。特に原発は、フランス人も反対しているが、電力を近郊の国に供給していることもあり、日本のように今すぐに原発を停止するのは難しいと言っていた。家ではとてもリラックスして話すことができ、今日なかなか話せなかった分、明日は絶対にみんなと話そうと思ったが、緊張とプレッシャーからなかなか寝ることができなかった。

『街のシンボル』

『優雅なランチ』

8月23日（木）　古城めぐり、食前酒

前日なかなか寝られなかったこともあり、次の日は少し疲れていた。今日は誉宙君のステイ先のマエル君と伴さんの4人でゆっくり古城めぐりであった。まず、アンボワーズ城を見学した。ロワール川に近く雄大であった。お城の頂上から見るロワー

『アンボワーズ城』

ルの眺めは最高であった。朝早かったので、他のお客さんも少なく、ゆったりと見学できた。周りの街並みも、まさにヨーロッパという感じだった。アンボワーズ城見学後、近くにあったダ・ヴィンチの家を訪問した。たくさんの人がチケット売り場で並んでいたが、前売り券を持っていた私たちは並ぶことなく入れた。家の中には、ダ・ヴィンチが残した言葉や、発明した道具などが展示されていた。特にダ・ヴィンチが残した言葉が印象に残った。家以外にも庭がとても広くダ・ヴィンチの絵画や、発明道具を体験することができた。率直にこんな家に住みたいなと思った。ダ・ヴィンチの家を訪問した後、近くのレストランで昼食を食べた。エスカルゴ入りのガレットを食べたが、エスカルゴは淡水の味がし、私には合わず、普通のガレットにすればよかったと思った。デザートにはクレープを食べた。これはとっても美味しかった。フランス人はエスカルゴをほとんど食べないらしい。なぜ、日本人はフランス＝エスカルゴという方程式を作ったのであろう。ゆっくりご飯を食べた後、シュノンソーへ向かった。しかし、体力に限界を感じたので駐車場で1時間ほど仮眠を取った。みんなに迷惑をかけてしまったが、体調と今後のプランを考えるといい選択ができたと感じた。少しすっきりし、シュノンソーに行った。シュノンソーは女たちの城と言われており、見た瞬間にシンデレラ城を思い出した。中の様子も絵画や装飾品がたくさんあり、先ほど訪れたアンボワーズ城に比べても女の子のイメージにぴったりであった。川の上にお城が建っているので、幻想的であった。帰り道に迷路があったので3人で競い合った。見事最下位だった。

古城めぐりの後、hotel du Grand Commandemnts での食前酒まで時間があったので、トゥール市内のカフェで休憩した。途中からアミローさんが来て、そのカフェのオーナーと話した。フランスでは、16歳、18歳から職人として働く人も多く、特に高校卒業後技術専門学校へ進学し働きながら学校に通い、学習と実習を同時進行で行う。最近、社会的にコストを下げる傾向にあり、パティシエなどの素晴らしい技術を持っていても、その技術に見合った価格設定ができず、昔からもっと技術者の価値が高い社会にするべきであったとおっしゃっていた。質の高い商品を出す店も存在するが、最近ではただ値段が高く、質が悪い店も存在しているので、トゥールだけでなく、フランス全土でもこのような店を取り締まる傾向にあると教えてくれた。このような現地に行かないと分からないようなことをたくさん教えてくれた。カフェで休憩した後、食前酒を飲みに行った。ホストファミリーやアリスちゃん、麗子さん、みりえちゃんとも合流して今日一日のことを話した。昨日に比べて少しみんなと緊張せずに話せたが、まだなかなかうまくいかなかった。めったに飲まないお酒も飲み2日間の疲れがたまって、とても疲れた。いつでも元気な誉宙君は本当にすごいと感じた。彼のようにはなれないと腹をくくって自分らしい滞在ができるようにしようと思った。疲れていることを察した伴さんはおそらくホームステイ先のマザーに伝えてくれ、とても家で心配してくれた。涙が出そうだった。昨日の晩は遅くまで話していたので、今日は早く話しを切り上げ就寝した。しかし、明日は現地の学生と話す機会が多いので、また緊張してしまい、なかなか寝られなかった。ドキドキが止まらなかった。

『食前酒をいただく』

8月24日（金）　職人美術館見学、市役所見学、現地の学生と交流

『すべて木』

　あまり寝られなかったにも関わらず、今日は昨日より、すっきりしていた。はじめに、職人博物館の見学をした。フランスには徒弟制度が昔からあり、旅をしながら職人の技を習得するというものであった。今でも続いているこのような制度は、日本ではあまり存在しないので、新鮮だった。今現在では、16歳で職人学校に入り18歳で出発し、25歳ぐらいまで修業をする人が多いらしい。芸術の国フランスならではだと感じた。建築、金属、皮、食の職人さんの作品が展示されていた。特に感動したのは、1本の木からできていた靴の作品で、木を彫って本当に編みこんでいるように見え感動した。たくさんの展示品を見てフランスの職人のすごさを感じることができた。帰りにフランス語で書かれた美術館の本をお土産でもらった。次に、隣の西トゥールで一番古いお菓子屋さんを訪問した。そこでは、伝統的なお菓子の作り方をすべての人に伝え、体験できるスペースがあった。私たちは、飴づくりを体験した。飴の原液を入れすぎた私に「結果じゃないよ」と言われ、人生にむけて言われたように感じとても心に染みた。この店では、一つひとつ手作業で飴を作るためとても手間がかかっていた。その分値段もとても高かったが、その大変さを知ったので妥当な価格だと感じた。普段の生活では、価格が高い理由までよく分かっていないので、このように高価格の意味をもっと提示していけば高いものも一般の人に売れるのではないかと感じた。次に、立命館高校の生徒と一緒に市役所見学を行った。あまりにきれいだったので、何度も「ここは､本当に市役所なんですか？」と尋ねた。話を聞くと、ここは会議や展覧会、結婚式などのパーティーを開くところで、仕事をしている場所は奥の建物にあると言っていたので納得した。会議室や舞踏会場など、いろんな部屋を見学した。

『市役所』

　市役所見学の後は、アリスちゃんの家でお昼ご飯をごちそうになった。今日こそはいっぱい話そうと決めていた私は、積極的にみんなに話しかけた。すると、言いたいことも伝わり、自信もついてきて、とても楽しくなった。自信は大切だと心から実感した。そして、緊張と不安もなくなり、とても楽しい時間を過ごすことができた。お昼を食べた後、一日市内観光に付き合ってくれたセリンちゃんも合流して、ロワール川沿いに夏だけ開催されている、いわば日本の海の家のようなお店であるガンゲットに行った。私はホストファミリーのリラとモードの友達のアリザちゃんと4人でいろいろなことを話した。日本のドラマの話になり、どの人が好きとかかっこいいとか何気ない会話をした。この時、女子会での話題は万国共通だと実感した。他にも、今日本で話題になっているいじめ問題や、社会保障の問題などかなり踏み込ん

『女子会』

だ会話ができてよかった。昨日までの自分とは比べ物にならないくらいリラックスができて、本当に良かった。気持ちは大切だと思った。家に帰った後は、TV を見てお勧めの番組や、歌手を教えてもらった。その夜は不安も解消されとってもぐっすり眠れた。

8月25日（土） 自由（街散策、アイスホッケー観戦）

休日だったので 11 時まで部屋でごろごろしていた。朝ごはんを軽く食べて、ホストマザーに刺繍を教えてもらった。初めてしたが、とっても楽しく、テラスでの刺繍はリラックスできた。1 時にリラとモードと一緒にお勧めの中華料理屋に昼ごはんを食べに行った。店の近くで昨日会ったアリスちゃんとも合流した。フランスで食べる中華料理は、とてもおいしかった。朝ごはんを食べてすぐだったので、チャーハンを残してしまったのが心残りだ。ご飯の後、街をぶらぶらし、お勧めのデパートやコスメショップを訪れた。リラとモードとが私の為にフランス語の星の王子様の本をプレゼントしてくれた。涙が出そうになった。「これでフランス語勉強してね」と言われ、ますます頑張ろうと思った。結局 5 時ごろまでゆっくり散策し、女子会を満喫した。家に帰り少し休憩してから、7 時からアイスホッケーの試合観戦をした。たくましいフランス人の戦いは非常にカッコよかった。スポーツは言葉が分からなくても通じるものがあるなと思った。無事応援していたトゥールが勝利した。ホッケーが終わった後、ご飯を食べ、丁度問題になっていた日本と韓国の領土問題や、愛国心、映画の話をした。フランスではインターネットで映画を見ているらしいが、近年日本の違法アップロードに取り締まりが厳しくなり、なかなか日本の映画やアニメが見られないと不満を言っていた。やはり、海外にいる人にも日本の素晴らしい映画、アニメ、ドラマを伝えるためにもネットで動画を公開するのは必要だと感じた。政府に働きかけないといけないことだと思った。翌日も休日なので、夜遅くまで 3 人で話した。本当に楽しかった。

『本屋にて』

『アイスホッケー観戦』

8月26日（日） 自由（麦打ち祭り、麗子さん宅にてクッキングパーティー）

日曜日は昨日より少し早く起きて麦打ち祭りに参加した。麦打ち祭りでは、伝統的な工芸品の紹介や実際にクラフトを体験できるコーナーがあった。そこで私たちは、小枝を使ってハチの模型を作った。自然なものだけを使って作ったので、優しい雰囲気がした。模型を作った後、近くが公園になっていたので散策した。少し迷路になっていて楽しかった。郊外だったので空気もおいしかった。その後は、誉宙君をステイ先に招待してみんなでお昼ご飯を食べた。この後はボランティアの麗子さんの家でパティシエの亮太さんがお菓子の講習会を開いてくれるというので、少し休憩して、びっくりさせるために日本から持ってきた浴衣をリラとモードに着付けをした。高松まつりで着付けしてもらっ

『麦打ち祭り』

たのを思い出しながら、日本で練習した成果を発揮した。初めてにしては、うまくいき２人も初めて浴衣を着たみたいで、とても喜んでくれてよかった。着付けが終わった後、少し遅れ気味で麗子さん宅に到着した。亮太さんはフランスの伝統菓子のシューケットとシトロンのタルトの作り方を教えてくれた。まずは、シューケットの作り方を教えてもらった。ポイントは生地の中の水分の量と卵の量であった。昔自分がシュークリームを作ったとき、うまく膨らまなかったのはなぜかと聞いたら、生地の中の水分が多すぎると膨らまないし、卵を多く入れすぎると爆発するとアドバイスをくれた。焼いている間に、タルトを作った。タルトの生地は１時間ほど寝かした。その間にレモンクリームを作った。さっぱりしていて、それだけでも大変美味しかった。また、私たちも日本の料理を紹介するため、ぶっかけうどんと、ちらし寿司を作った。麗子さんもたくさん日本料理を作ってくれ、とてもおいしかった。みんなで机を囲み団らんしながら食べた。途中、誉宙君のステイ先のビビアンさんと原発の意見交換等も行った。ビビアンさんはグリンピースというＮＧＯの団体に所属しており、環境問題等についてよく知っていた。フランス政府は原発のことを安全だと言って国民を信じ込ませていると言っていた。しかし、福島の事件があって国民が不信感を抱いても、フランスには地震もないし、今まで事故は起こってないといって、大丈夫だと言っているらしい。しかし、大統領も代わり、少しずつではあるが、古い原発からなくしていく動きにあると教えてくれた。このような建設的な話もでき、とても有意義な時間を過ごすことができた。久しぶりのうどんは美味しかった。帰り際に、モードが「すごく楽しかったけど、とてもさびしい気持ちになった。もうこのようなことができなくなるかと思うと、とても寂しい。」と言っていた。その通りだった。

『私の着付け』

『クッキングパーティー』

8月27日（月）　ワインカーブ見学・試飲

今日は午後からの見学だったので、午前中は刺繍をしながらゆっくり過ごした。午後からは食前酒の時に、シャンパンを持ってきてくれた方のワインカーブを訪問した。ここのワインカーブは芸術家の人と協力して、まるで美術館のようなワインカーブであった。ワインにまつわる物語の作品がたくさんあったが、きちんとワインも保存されていた。洞窟のような作りで、とても涼しかった。最後には３種類のワインの試飲をした。一気に３杯飲んだので、初めて酔いを感じた。セミドライとスパークリングワインが飲みやすかったのでお

『ワインカーブ見学』

土産に買って帰った。

　ワインカーブ訪問の後は、リラとモードとみりえちゃんの4人でカフェでまったり過ごした。話題は恋愛の話だった。ここでも女子会の話題は万国共通だと実感した。どんなひどい人だったかを話合いながら、みりえちゃんの彼氏はどうなのかなどについて語り合った。聞くだけでもとても面白かった。それから、夕日がきれいなロワール川を見ながら過ごした。日本ではいつも海に沈む夕日を見ていたが、ロワール川からの夕日も格別だった。川を見ていると、たくさんの人がランニングをしていた。夜になっても明るいトゥールは仕事終わりのランニングには最適だと感じた。健康志向の高い街だと思った。川を見た後は家に帰り、高松市のムービーを使って高松市の紹介を行った。海がとてもきれいと言ってくれ、また、ぜひ訪れたいと言ってくれた。こうしてみると高松市は素晴らしい街だと感じた。とても高松に興味を持ってくれてとてもうれしかった。そして、モードがギターでジブリ作品の一つ「猫の恩返し」の主題歌を歌ってくれた。感動した。

『女子会 in ロワール川』

8月28日（火）　市長表敬、国立農場研究院訪問・見学

『緊張表敬』

　これまでのゆっくりとした時間とは打って変わって、今日は9時から市長表敬があった。少しきちんとした服装で行った。会場には高松市の大西市長もいらしており、少し緊張した空気だった。新聞記者からインタビューを受けた。まず記念写真を撮った。それから、2階へ上がり市長表敬があったが、残念ながらトゥール市長とはお会いすることができなかった。しかし、議員の方々と交流した。たくさんのお土産も頂いた。訪問する予定だったチーズ職人さんも、わざわざあいさつにきてくれた。品質管理で一番気にしていることはと質問すると、はじめによいチーズを集めることだと教えてくれた。市長表敬が終わった後、一度家に帰り、近くの店で買い物をホストマザーとし、昼食を食べた。

　午後からは国立農場研究院の見学･訪問を行った。トゥールにある国立農場研究院は、主に食品に関して研究を行い、特に人が食べる動物（牛、トリなど）の健康について研究をしたり、その肉をより美味しいものにするため（食感、栄養面など）の研究を行っていた。私が訪問した研究室では、鶏の卵についてと、人がその卵を食べてどのように消化されるのかについて研究を行っていた。卵の殻が抗菌性を示す原因を調べており、とても興味深かった。実験施設を訪問した後に、鶏が飼育されている施設を訪問した。少し遺伝子が違うだけで、鶏冠や羽の色、毛の質感などが全く異なり、またエジプトなど飼育環境があまり良くないところ原産の鶏は病気に強いと教えてくれ、うまくできているなと思った。鶏の歴史はロゼッタストーンに書かれているほど、かなり

『国立農場研究院見学』

昔から人と関わりがあったが、食べる習慣ができたのは、19世紀に入ってからで、今はいい品種を如何に保存していくのかが重要な課題だと教えてくれた。見学が終わった後、買い物がしたいとずっと言っていたので、街で降ろしてもらい、ホストマザーとリラとモードの4人で買い物をした。かわいい雑貨屋を教えてもらい、自分のものを買った。街全体がおしゃれであった。しかし、リラとモードが言うには、日本の雑貨が一番かわいいと言っていた。私がフランスの方がかわいいと言ったら、反対していた。買い物が終わった後、スーパーで食料品のお土産を買った。家で頂いたホットチョコレートがとても気に入っていたので、家と同じものを買った。家に帰り、いつも通りご飯を食べて、食後に話をして就寝した。今日が、最後の晩ご飯かと思うとすごくさびしくなった。

8月29日（水） 大劇場見学、SEGWAY体験、さよならパーティー

『operaとわたし』

今日は最後の日だ。そう思うと朝からとても泣きそうになった。まず朝は、大劇場の見学を行った。今は上映していないので、こっそり会場に入った。大劇場の中は赤と金色をモチーフにした作りで、お城のようだった。昔の貴族がドレスを見せびらかすための階段を上るだけで、気持ちが高まった。普段では絶対にみることができないような衣裳部屋や舞台裏を見学できとてもいい経験になった。合唱団に所属していた私は、みんなに便乗して大声を出して、すっきりした。見学の後、アンボワーズ城に行き、セグウェイ体験を行った。はじめは全く乗りこなせず、移動中も何度もこけそうになった。しかし、前回訪れなかった道や高台に行け、景色は最高に美しかった。ロワールや郊外の町を見渡すことができた。もう少し写真が撮りたかったが、怖くてできなかったので残念だった。日本ではなかなかできない体験だった。セグウェイ体験が終わった後、ガンゲットに行ってゆっくりしていた。この旅のアンケートを書いたりしながら、フランス学生が来るのを待っていた。学生さんたちが来て、ゲームをした。私は、”magic”と言うカードゲームをした。カードの内容がフランス語で書かれていたので、セリンちゃんが一つずつ説明してくれた。初日に比べて格段とコミュニケーションが取れるようになった。夕方になり、どんどん人が集まって、最後のさよならパーティーが始まった。私は、リラとモードの横に座った。ここでは映画の話題がヒートアップした。フランスでは大人は8ユーロほどで映画館で映画を見ることができ、またDVDも1枚2000円以下と日本の半額近くだったので、本当にたくさんの映画を知っていた。日本のDVDの値段や、映画館での料金を伝えると、あんまり映画を知らないことを納得してくれた。フランス人は全く会話が途切れないので感心した。また一つひとつの映画に対してしっかりと意見を持っていたので、真似したいと思った。あまりたくさんの映画を知らない私にお勧めの映画を教えてくれた。私もお勧めの日本ドラマを伝えた。フランス語がなかなか分からなかったのが心残りだったので、次訪れるまでにある程度理解できるようになろうと決めた。最後に食べたデザートがあまりに美味しくなかったので、その話題

『さよなら記念』

で盛り上がった。ご飯を食べた後、学生たちだけでロワールを散歩した。夏の終わりで酔っ払いも多かったが、いい経験になった。最後に帰るとき、この滞在で一番多くのビズ（ほっぺのあいさつ）ができてよかった。最後の日はスーツケース詰めをひたすら行い、深夜２時ごろに就寝した。

8月30日（木） トゥール出発、パリ到着、パリ視察。

『last pic』

最後まで慌ただしかった。遅刻しそうになり、さらにホストマザーが駅を間違えてトゥール駅でなく、サン・ピエール・デ・コール駅に行こうとしていた。トゥール駅とは方向が違うなと思った私は、「今どこに行っているの？トゥール駅だよね？」と言い、驚いたマザーは急いで駅へ向かった。寂しい思いから笑いに変わり、とてもリラックスできた。駅に着くと、みんなが待っていた。寝坊したら行かないと言っていたアリスちゃんやトーマくんも朝早いのに来てくれてうれしかった。最後にみんな当てにメッセージカードとホストファミリーにお手紙を渡した。ホストファミリーもカードをくれた。その時に涙が溢れ出した。やはり別れはきつかった。寂しくて泣いていたら、リラとモードが「大丈夫。また会えるから寂しくないよ。」と励ましてくれた。みんな最後の最後まで優しかった。出発のベルが鳴った。二人で涙をこらえながらTGVに乗り込んだ。私は泣いていた。ずっと二人で手を振った。みんなの最後の顔が今でも忘れられない。TGVは出発し、トゥールを後にした。泣いてごめんねと誉宙君に一応謝った。荷物を連結部におき、自分たちの座席を探した。しかし、前回乗った時は簡単に見つけられた自分たちの席が見つからない。よく見ると、別の人が座っていた。近くの人に尋ねると、「人が来るまで別の空いている席に座って、もし人が来たら尋ねてみれば」とアドバイスをくれた。もちろん次の駅で私たちが座っている席に人が来た。ドキドキしながら、私たちは予約していた席に座っていた人に「私たちの席です」と伝えると、その人たちもきちんと予約していた。オーバーブッキングってあるんだなと思い、連結部にあった簡易の席に座った。しばらくすると、車掌が来た。そこで初めてミスに気がついた。チケットの日付が次の日であった。実は、昨夜少し携帯の日付をみて違和感があったが、予定は合っていると思っていたので、ここまで来ていた。しかし、確かに今日は31日ではなく、30日であった。かなり焦った。どうしようもなかったので、急いで車内で再度チケットを購入し、急いで伴さんに連絡をした。結果は、日程の確認ミスであった。素早い対応をして頂いたので、無事ホテルも２泊出来るようになった。かなり焦ったが、１日得した気分になった。今後のことは、とにかくパリに着いてから、考えようと思った。最後の最後まで皆さんに助けられた。モンパルナス駅についた。出口を探し、うろうろしていたら子供に笑われた。トゥールとは全く異なり、危険が潜んでいる雰囲気がした。気合いを入れて移動した。タクシーに乗るのも一苦労だった。予定では９ユーロぐらいだと思っていたが、たった３分ぐらいの乗車で17ユーロも請求された。「高くないですか？間違ってないですか？」と聞いたが、変わらず、伴さんに聞くと荷物もあったので妥当かもと言われた。ドキドキのチェックイン。普通なら簡単にいくが、日にちが延びたこともあり、なかなかうまくいかなかった。いろい

ろ説明をしながら無事早い時間にチェックインすることができた。残念ながら、部屋が1つしかなかったので、初日は2人で滞在することになった。しかし、それ以上に色々な緊急事態で体も心もくたくただったので、なんでも良かった。ベッドが1つしかなかったが、誉宙君が床で寝ると言ってくれた。とりあえず、休憩した。伴さんにも無事チェックインをしたことを伝え、麗子さんにも今の状態を伝えた。すると、パリに用事があったので、また会えることになった。チケットの払い戻しなどにも同行してくれることになり、助けてもらいっぱなしだった。お昼に伴さんの知り合いのフランス料理店へ行く予定だったので、それまで休憩し、しっかりとメトロの乗り方を予習してパリの街へ出た。チケットも無事買うことができ、ドキドキしながらメトロに乗った。車内に駅のパネルがあったので、迷うことなく目的の駅で降りることができた。初めてゆっくりパリの地上を見て感動した。パリに来たんだと実感した。iPhone を大いに活用し、休憩しながらフランス料理店に行った。高級なフランス料理店に行ったことがない2人は少し戸惑いながら席に着いた。日本語で「水いりますか」と聞かれたが、フランス語に聞こえて分からなかったが、なんとか理解できた。ナプキンの使い方もままならない未熟な2人だったが、なんだかんだで、満喫できた。料理もシャンパンもとっても美味しかった。2時間ほどゆっくりしてから、エッフェル塔に向かって歩き出した。途中地図も見ながら歩いたが、エッフェル塔は大きいので、エッフェル塔に向かって歩けば無事着いた。上には上らなかったが、周辺で写真をたくさん撮った。写真を十分に撮った後に凱旋門に向けて出発した。観光客も多かったが、野原でゆっくりする人もおり、時間がゆっくり過ぎていた。凱旋門周辺は交通量が多く騒がしかった。天気もあまりよくなかったので不安であったが、無事凱旋門を登ることができた。そこからの眺めは最高だった。都会と古い街並みが共存していた。登る価値は本当にあると感じた。天気も悪くなってきたので、下に降りた。下に降りた瞬間、雨が降ってきた。傘を持っていなかった私たちは、雨宿りをすることなく、とにかくシャンゼリゼ通りを歩いた。なかなか止まなかったので、途中入りやすそうなデパートに入った。かわいい雑貨があったのでお土産に買った。なかなか止みそうになかったので、また雨の中歩いた。途中でルノーの自動車展示場に立ち寄った。日本のショールームとは違って誰でもが入り易いところだった。全く車に興味がなかった私も楽しめた。行ってよかったと思った。雨にも打たれ、疲れていた私たちは、シャンゼリゼ通りを後にし、ホテルに戻ることにした。しかし、帰りの時間が5時と帰宅ラッシュだったので、メトロはとても危険だった。1駅だったので、なんとか問題なく乗れたが、とても怖かった。帰り道バゲットと飲み物を買ってホテルに戻った。iPad で遊んだり、音楽を聞いたりしながらまったり過ごした。途中うたた寝をしたが、麗子さんの電話で起き、明日のチケット払い戻しの計画を立て、お風呂に入って研究内容などを話しながら寝た。

『エッフェル塔』

『ひとりメトロ』

8月31日（金） パリ視察。

チケット払い戻しの為、7時ごろに起床し、準備をして部屋を出た。モンパルナスの駅で麗子さんと待ち合わせた。現地では払い戻しができなったが、なんとか交渉成立した。麗子さんにメトロに乗ったと報告すると、びっくりしており、すごいねと褒められた。とっても嬉しかった。それから、ルーヴル美術館へ向かった。人があまりいない正面入り口ではないところから入った。チケットはクレジットを使った。英語のガイドしかなかったが、有名な作品は写真付きで紹介してくれていたので、とりあえず有名どころの作品を見ていった。はじめに、ミロのヴィーナスを見た。オーラがあった。正直

『ルーヴル美術館』

ほかの有名な作品の中でも一番きれいだと感じた。かなりルーヴルは広かったので、椅子に座り休憩しながらのんびり鑑賞した。チケットハプニングがなければルーヴルには行けなかったと思うので、この機会に感謝した。モナリザも無事見えた。13時ごろルーヴルを後にし、麗子さんと合流して、ランチを公園で食べて、フレンチな気分になった。ゆっくり昼食を食べ、オペラ座を見に行った。しかし、今日はV.I.Pが来るみたいで残念ながら中を見学することができなかった。この後、ムーランルージュのツアーを申し込んでいたので、急いで、ホテルに戻った。今日の分のチェックインをしていなかったので、しようと思ったが、バウチャーが見当たらなかった。かなり探したが無く、また、磁気の関係で鍵も使えなくなっておりかなり焦った。ホテルのロビーまで来てくれていた麗子さんが、ホテルの方に説明してくれ、最後の最後まで麗子さんにはお世話になった。どうにかもう一部屋確保でき、麗子さんと別れ、急いでムーランルージュの用意をした。ドレスコードがあったので、市長表敬で着た服を着た。少し遅れ気味でホテルを出た。最後の企画だったので、カッコつけてサングラスをかけながら街に出た。しかし、一瞬の気の緩みをパリは見逃さなかった。モンパルナスで誉宙君がポケットに入れていたサングラスがなくなっていた。私は考え事をしていたので、サングラスがなくなっていることに全く気付かなかった。周辺を捜したが、なかった。物を失くすと言うのはかなり精神的に厳しいので励ましたが、見つからず力になれなかった。ほんの一瞬の気の緩みでスリは起こることだと実感し、それ以降は、常にバックを気にした。あれこれ考えても戻ってはこないので、全力で最後のパリを楽しもうと思った。ツアーの待ち合わせ場所には、私たちみたいにドレスコードを守っている人はほとんどいなかった。普通で考えるとスーツなんか旅行に持って来ないので当然であった。バスの乗り込み、無事ムーランルージュに着いた。たくさんの人が既に並んでいた。カメラが禁止だった。無事会場に入れ、なお且つ、ステージがよく見える席で幸運だった。前菜などを食べながら、同じ席に座った人と会話をし、開演まで思い思いの時間を過ごした。オープニングアクトも雰囲気がよく、とても楽しめた。私が楽しめるかどうかをかなり気にしていたが、十分楽しめた。しかし、本公演が始まると、唖然とした。アクトレスの女性がトップレスであった。なにもムーランルージュについて知らなかったので、かなりびっくりした。これで心配されていたんだなと実

『フレンチ』

感した。目のやり場に困ったが、せっかく来たので、そんなことは気にしないようにし、思いっきり楽しんだ。特に面白かったのは、誉宙オンステージであった。公演の合間に、観客参加型のパフォーマンスがあった。ランダムにアクターが選ばれるが、それになんと、目の前の誉宙君が指名された。さすがテアトル所属（音響）。堂々とステージで演技を見せていた。撮影したかったが、カメラ禁止だったので、臆病な私は撮影することができなかった。ごめんなさい。剣で戦うところはかっこよかったと思う。コメディテイストで面白かった。「私あの人知ってる」と思うと、誇りに感じた。もちろん本番の公演も素晴らしかった。大人数だと迫力があるし、少人数だとじっくり見ることができ、常に目が飽きることがなかった。演劇初心者の私も十分楽しんだ。また行ってみたい。今度は自分がステージに立てるように。公演が終わった後は、みんなに褒められていた我がアクター。最後に素晴らしい思い出ができた。帰りのバスの中でも興奮が止まらなかった。しかし、最後の夜。これまでの思い出を振り返りながらセンチメンタルな気分になった。だが、最後までこの旅はトラブル続きだった。最後の最後にまたホテルのキーが磁気の関係で使えなくなっていた。今回は麗子さんはいないので、2人でロビーに行って、このトラブルを乗り切った。お風呂に入り、スーツケースを準備して、絶対に寝坊しないようにお互いのスペアキーを交換して、就寝した。

『最後の夜』

9月1日（土） 出発

無事6時ごろに起き、ついでに誉宙君を起こしに行った。ホテルの朝食が6時半からで、7時のバスに乗る予定だったので、かなりハードなスケジュールだった。朝食は食べたかったので、時間前に朝食会場に行き待ち伏せた。しかし、予定はうまくいかないもので、結局7時30分のバスに乗った。麗子さんがお見送りに来てくれた。本当に最後の最後までお世話になった。言葉では感謝が表せない。終日私は疲れからかドキドキしていた。酔い止めもしっかり飲んだ。到着の時と同じE2だったので見たことある風景が広がった。TGVの駅を通りすぎた。何の変わりもない景色だったが、少し寂しかった。チェックインカウンターでは荷物の重量オーバーが気になった。私のスーツケースはぎりぎりオーバーの23.7kgだったが、別に追加料金をとられなかった。無事荷物も預けることができ、時間もあまりなかったので、すぐに出国手続きの列に並んだ。たくさんの人が並んでおり、少し時間がかかったので、余裕をもって早めに並んでよかったと思った。無事、パスポートにハンコをもらい、免税店で最後の買い物をした。もっと見たかったが、時間が迫っていたので少しお土産を買って終わった。乗る予定の飛行機出発ロビーには当たり前のように日本人がたくさんいた。安心感がこみ上げた。予定通り、搭乗時間になり、飛行機に乗り込んだ。まだ朝早かったこともあり、絶対に帰りの飛行機では映画をたくさん見ようという思いを馳せて飛行機に乗った。疲れていたので、はじめに寝ようと思ったが、帰りの飛行機ではほとんど寝なかった。その分映画を4本ほど見た。面白かったのは、「白雪姫と鏡の女王」だった。日本に帰って知ったが、まだ日本では公開されていなかった。このようなことがあるので、私は飛行機が大好きである。しかし、いくら映画を楽しんでも約12時間にも及ぶフライトは肉体的にも精神的にも疲れたが、トイレに比較的多く行ったので、その分はよかった。行き

のフライトに比べて、比較できないほど帰りのフライトは時間が短く感じた。あっという間に日本に着いた。

9月2日（日） **帰国。**

日本について一歩目。私のクロックスの靴が一気に湿った。日本の湿気には驚いた。とにかく蒸し暑い。フランスに帰りたいと心から思った反面、母国の安心感を持つことができた。なにを見ても理解できる看板が嬉しかった。無事入国審査も通過し、荷物を持って税関も通り抜け、国内線のチェックインを済ませ、ターミナル行きのバスに乗り込んだ。国内線ターミナルに着き、こちらも搭乗時刻が迫っていたのでゆっくりすることもなく、一番遠い搭乗ゲートまで早歩きで歩いた。高松行きの飛行機のゲートに着き、母親に帰国の連絡をした。安心し、緊張の糸がほどけ、うれしさからテンションが上がった。飛行機が飛び立つまでとてもテンションが高く、誉宙君を巻き込み搭乗員ごっこをして楽しんだ。しかし、やはり疲れていたので、ドリンクを飲んで一度も起きることなく高松に着いた。田舎っぷりにびっくり。高松空港に着き、荷物をとるのも忘れて到着ロビーに行こうとした少年。よっぽど帰りたかったのか。荷物を待つ時間は長く感じた。到着ロビーに今こそ着いた。見たことある顔が広がった。無事帰ってこられてよかったと心から感じ、感謝の意がこみ上げてきた。疲れていてほとんど覚えていないが、家族っていいなと感じたのは確かだった。二人とも疲れていたが、誇らしい顔を見せられたのではないかと思う。一皮むけたいい旅になった。

感想文

キセキ

香川大学　農学部　４年
宮本　彩加

この経験は一生忘れることはないだろう。大学生の自分は、積極的に動くことは決してなかった。私の日本での生活は、平日は深夜まで研究をし、休日は、バイトをし、全くと言っていいほど、人と関わりがなかった。疲れると思っていたからだ。しかし、トゥールに行くことが決まって、さまざまな人と関わるようになった。まずは、高松市国際交流協会のみなさま。高松祭りでもたくさんの外国の方と交流ができ、国際交流に関わる仕事は素晴らしいと感じた。次に、一緒に行った塩田誉宙君。彼の積極的な生き方に感銘を受け、心から自分の生き方を後悔した。今でも「自分から行かないとなにも始まらない」というアドバイスは胸に残っている。出発前、既に私の将来に対する考えが少しずつ変わってきた。トゥールでもたくさんの人々と話をすることができた。全くフランス語が喋れない私に、優しく手を差し伸べてくれたみなさま。心のこもった善意を感じることができた。人は、人と接することがなければ、成長しないと感じた。トゥールでの滞在中、英語でのコミュニケーションがなかなかとれず、苦しい思いもしたが、これが克服できたのもトゥール市のみなさまのおかげである。

現地では、ホストファミリーと様々なことを話合った。日本の文化や、原子力発電、社会保障などフランスと比較しながら話せ、自分も日本のことを知るきっかけになった。特に印象に残っているのは、日本のいじめ問題について話したことだ。フランスにも、いじめが存在するらしいが、多くの生徒は、何か心に悩みがあると、すぐに精神科医や心理カウンセラーのもとに訪れ、解決策を考えると言っていた。日本は、今では多くの学校にカウンセラーが常在しているが、ほとんどの人が相談に行かない。しかし、フランスでは、診察代も無償で、気軽に訪れると言っていた。日本で、いじめや自殺などが多いのは、うまく心理カウンセラーや精神科医を活用できていない社会の問題だと感じた。

初めて国際交流をしたのは高校生の夏。はじめて初対面の外国の方と話し、おそらく”Do you play soccer?”ぐらいの会話しかできなかったと思う。そう考えると、このトゥールの経験で、つたない英語ではあったが、原発問題や、社会保障の問題まで深く話ができたので、当時に比べて成長を感じることができた。帰国後は英語の必要性を大いに感じ、毎週英語サークルやEnglish Café、チャペルを訪れて、国内外問わず多くの人々と英語で会話をするようになった。トゥールでの経験から、これからの人生を考えるようになった。今、これまでの自分からは想像ができないくらい活発に人生を歩んでいる。

親善研修生　報告書　Ⅱ

日誌・活動記録

香川高等専門学校　5年　塩田　誉宙

8月20日（月）　出発

『出発 我が家』

いざ研修生となると、もう一人の研修生である宮本さんの様な“農学部としての立場から自給率や原発の意識についての討論”といったようなプログラムの希望がなくてよいのだろうかと、しばらく不安に思っていた。だが出発当日にはその思いは吹っ切れ、自分は自分なりの良さで交流してこようと思えるようになった。カポエィラ、劇団、詩吟、青年団。いくつもの団体に所属している私は、様々な年代、様々な職種、様々な人生観を持った先輩方から、多くの事を学んできた。特にカポエィラで出会った外国人達との経験を思いだし、フランスでどんな出会いがあるかと楽しみに思えるようになった。

8月21日（火）　到着、自己紹介、家の案内

『だんらん ＋1』

『家の外観』

ホストファミリー

父：Philippe（フィリップ）
先生をしていて、意思の疎通が上手くいかない時も落ち着いて話を聞いてくれた。

母：Marie-Christine（マリ－クリスティ）
笑顔の絶えない人で、優しく包容力があった。困った時にすぐフォローしてくれた。

長男：Vivien（ヴィヴィアン）28歳
日本語が通じ、言葉が見つからない時、何度も助けてくれた。

次男：Mael（マエル）　18歳
音楽の趣味が合い、年代が近くフランスの若者らしさを感じ取れた。

長女：Celia（セリア）24歳
土日しかいなかったが、活発ですぐ打ち解けた。パワフルで元気をもらえた。

フランス到着後、駅にて団体の歓迎を受ける。どうにも目が死んでいたらしい。初めての海外旅行なので疲れが出てしまったのかもしれない。その後、軽く挨拶を済ませて

ホームステイ先の家へと向かう。笑顔で迎えてくれたので、いくぶんか緊張もほぐれた。

靴で家にあがったのが初めてだったので新鮮だった。次男のマエル君が家に入る前に靴を脱いでいたので間違えそうになったが、家の中だろうが外だろうが裸足で歩いているだけだった。庭の砂利道すら裸足。ワイルド。

8月22日（水）　市内見学（駅、教会、マルシェ、語学学校）

この日はトゥール市の見学をしてきた。やはり街並みも日本とは大きく違う。ほとんどの建造物から歴史的な情緒を感じ、ただの道を歩いているだけでも観光できる。そんな印象を受けた。そもそも、地震などの災害が多く、火事の影響を受けやすい木造建築の日本とは違い、災害が少なく、古くより石造建築が造られてきたからだろう。

『トゥールの顔』

『サン・マルタン大聖堂』

“教会”というようなものは想像していたが、予想外の巨大さであった。ここはステンドグラスが数多くあり、その一つひとつが美しく、感動があった。サン・マルタンという人が起こした奇跡についてストーリー調に描かれたステンドグラスもあり、事前に調べてから行くのも面白いかもしれない。

『サン・ガシアン大聖堂』

こちらも非常に綺麗な造りをしていて、厳かな雰囲気を感じ取れた。こういう場所に来ると、落ち着いて疲れが抜けていくような気分になった。

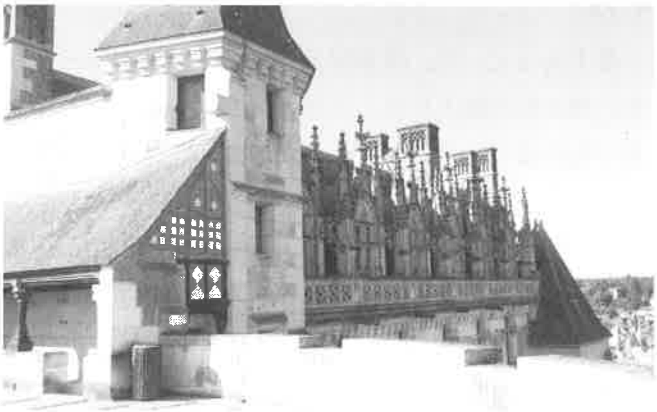
『マルシェ』

そして街を歩いていると、気づけば男性が合流していた。亮太さんと言う日本人で、パティシエとして働く為にトゥールのフランス語学校へ通っていたらしい。その後、一同でマルシェへ向かう。ホームステイ先のマダムもよく来るようで、日本の市場と似たような活気を感じた。日本では見ないような野菜もあり、色々と試食してみたかった。肉屋ではウサギが一羽まるまる売られていて驚いた。うさぎは飼っているので食べるのは遠慮したい。

先程合流した亮太さんの母校。ここトゥールは、最も美しいフランス語を話す地域と言われており、ここの学校にも多くの入学希望者が来るらしい。対応してくれた先生も親しみやすそうな人で、自分が入学したいくらいだった。

『フランス語学校』

8月23日（木） 古城めぐり、食前酒、ダンスイベント



『アンボワーズ城』

朝早くから行ったこともあり、ほぼ貸し切り状態なほど人の少ない中で観光できた。戦争などで大分破損も進んでいるらしいが、小高い丘の上に立っているだけあって眺めが最高に綺麗で、テラスから眺めるロワール川はとても感動的だった。

お昼頃になっていたので、観光客も増えてきたころだった。世界的に有名な芸術家であり、科学技術などにも精通する万能人、レオナルド・ダ・ヴィンチが生涯最後に住んでいた屋敷ということで、とても興味をそそられた。数多くの発明品も残されており、実際に体験も可能で、そういったモノが好きならば一見の価値ありだと思う。

『ダ・ヴィンチの屋敷 クロ・リュセ』

『シュノンソー城』

トゥール市が誇る水城だそうで、高松市が誇る玉藻城も紹介したいと思った。やはり敷地が広大で、内装も豪華であった。ボートも借りて水路を渡れるようで、時間があれば体験してみたかった。

プログラムの一環で、Hotel du Grand Commandments という場所にて食前酒を頂いた後、ここでひとつ毛色の違うイベントに行ってきた。このステージとなっている「ガンゲット」とは、川沿いにある大衆向けの酒場やダンスホールのようなもので、夏場には踊りや色々なジャンルの音楽と共に食事や酒を味わうことができるそうだ。今回のダンスイベントも老若男女問わず観戦していた。またこのガンゲットでは頻繁になにかしらのイベントが開かれているらしく、川沿いにこのような場所があるのをうらやましく感じた。

『ダンスイベント in ガンゲット』

8月24日（金）　美術館、市役所、ガンゲット

携帯の電池が切れてしまい、他の人に頂いた写真を使っている。美術館は様々な工芸品があり、特にお菓子で作られた展示物は、飴やパスタで丁寧に作られた飾りから、その緻密さに卓越した技術を感じた。あれだけ精巧に作られていて、しかも食べられるというのであれば結婚式等、大事な場面では是非依頼してみたい。

フランスでは、こういった所に展示されるような“腕のある”職人たちを育成する為の制度があるときいて、日本でもこういった技術を尊んで行かなければいけないと痛感した。しかし、現在は安かろう悪かろうといった商品でも、安ければ買ってしまうような消費者が増え、高い技術で作られた製品はその価格も自ずと高くなり、なかなか購入まで踏み込めないといったことが多い。フランスもそういった問題があるとトゥール市国際交流・自治体交流課長のアミローさんに聞き、両国ともに打開策が必要であると感じた。

『ミュゼ後　お菓子作り』

その後、実際に飴を作る体験をした。対応してくれたのがひょうきんなオジサンで、ところどころからかわれたりもしたが、楽しく体験することができた。また、チョコレートやケーキなどの試食もさせてもらった。ブルーベリーの種取りなどの作業もほぼ全て手で行っているらしいが、一日に百キロのブルーベリーの種を取ることもあるらしく、熟練した職人の技を垣間見た。

残念なのが、この古くから続いてきた菓子店が地域一帯を潰してホテルを建設するという市の事業の影響で無くなってしまうという事実だ。上にも書いたように、職人の技術を見直さなければいけない今こそ、このような店を残していかなければいけないのではないのだろうか。

次は市役所を見学した。これもまた歴史的情緒溢れる素晴らしい建物であった。日本の市役所は綺麗ではあるが、あくまで仕事用の建物であるので、オテル・デ・ヴィレに入ってみると改めて圧倒された。やはり有名な建築家が設計したようで、市議会の部屋では、議会中は大きな声で話し、ジェスチャーが多く、まるでテアトルのようだという

『オテル・デ・ヴィレと日本人女子高生』

ことで正面背後にバルコニーが存在するなど、ユニークな部分もあり、多くの見どころがあった。

その後はガンゲットに行き、現地の学生と将棋やＰＩＸというゲームで遊んだ。将棋を知っているフランスの学生は、ジャパンエキスポでその存在を知ったと言っていた。自分は、まともに将棋をしたことがなかったが、新鮮な気持ちで楽しむ事ができた。ＰＩＸというゲームは、カードを引いて、書いてあるお題を黒四角のドットを使って表現するというゲームだった。フランス語が読めなかったが辞書を使い、学生に意味を聞きながら挑戦してみた。"猫"なんていうお題は世界共通なようで、学生の皆もすぐに答えを当ててくれた。逆に、"墓"というお題が出て、日本式のお墓を書いたら誰も分からなかった等、一風変わった国際交流を行うことができた。

『ガンゲット　学生とのふれあい』

8月25日（土）　カポエィラ、アイスホッケー観戦

『CAPOEIRA MANDARA』

ホームステイ先の次男、マエル君（写真　左１番目）の友人である、アルメニア人のマカルティッシュ君（写真　左２番目）が偶然にもカポエィラをやっていて、その団体の練習に参加してきた。カポエィラをやっている人達に悪い人はいない。体のぶつかり合いですぐに打ち解けることができた。日本に少しでも興味を持ってもらえたなら幸いである。

練習が終了した後、マカルティッシュ君に連れられてシャワールームへと向かった。シャワーを浴びた後、着替えていたらバスタオル一枚のマドゥモワゼルが出てきた。フランス人の気質なのか、その人の性格がサバサバしていたのか甚だ疑問ではあるが、とても驚いた出来事の一つであった。

『カフェでの交流』

二人ともまだ18歳ということで、ノリのいい交流ができた。カフェでキュウリ味のディアボロを試し、アイスを食べ歩き、ゲームショップでお土産を買ったり、fnac（フランスの電気製品チェーン）でCDを買ったりと、フランスの若者達との交流を楽しんだ。

マダム、ヴィヴィアン、マエル、宮本さん、宮本さんのホームステイ家族と共にアイスホッケーの試合を観戦してきた。それほどメジャーなものでもないらしく、ステイファミリーの誰もルールを知らなかった。トゥールのチームが勝ったが、かなりエキサイトしていた。見ている分には楽しかったが、試合中に３回も乱闘があった。宮本さんのステイ先の長女が、そのたびに凄い顔をしていたので女の子には少し刺激が強いのかもしれない。

『アイスホッケー』

8月26日（日）　麦打ち祭り、お菓子作りパーティー

『麦うち祭り』

この日は、朝からフルネル夫人の引率で行動した。“木で編み物を作る”というワークショップに参加し、写真の作品ができた。ハチの飾りらしいが、あいにく細かい作業は苦手なので上手くはないが、やったことのない体験で、完成した時は感動した。

『麗子さん宅でお菓子・うどん・寿司パーティー』

トゥールに住む日本人の麗子さんという方が色々と親切にしてくださり、彼女のお宅でタルトとシュークリームを作った。お菓子作りはしないので、楽しく作ることができた。絞り器がなかったので、レモンは素手で絞った。また、香川の名産品である“うどん”を知ってもらうために麺を持って行っていたので一緒に作り、振舞ってきた。一番大きな鍋を用意してもらい、たくさんの湯を用意した。本当はグツグツと煮えたぎるまで温度を上げたかったが、火力の問題かそこまではできなかった。固まらないように丁寧に茹でたので、美味しいと喜んでもらえたが、是非本場香川まで来てうどんを食べてもらいたい。

8月27日（月）　高松市長表敬、ワインカーブ

Le “ sayonara ” des étudiants japonais

Vingt-quatre ans de jumelage et d'échanges d'étudiants. Hier, la mairie de Tours fêtait de manière informelle, autour d'un petit-déjeuner, cette amitié qui la lie avec la ville de Takamatsu, une ville de 400.000 habitants dans l'île de Shikoku au sud du Japon, et le prochain départ des deux étudiants en villégiature en Touraine. Ce sont donc ces deux étudiants, Ayaka (une jeune fille) et Takahiro (un garçon) qui étaient reçus hier dans les salons de l'hôtel de ville à l'issue de leur séjour de dix jours à Tours.

Au programme de leur semaine, le château d'Amboise, le Clos Lucé mais aussi une immersion dans la culture française avec à la clef, la découverte de la gastronomie française. Ce qu'ils ont préféré ? Le chocolat et la charcuterie. Et petite surprise pour eux, dans le sac de souvenirs Marie-Bernard Amiault-Dess, directrice des relations internationales, avait glissé des chocolats tarement. Que pensent ces deux étudiants, l'un en acoustique, l'autre en botanique des Français ? Ils ont relevé leur indiscipline. Etonnés de les voir traverser un peu n'importe où et n'importe comment. Et cette manie qu'ils ont de se faire la bise. Exotique ! Invitées également, les deux familles d'accueil ont passé les derniers instants avec leurs petits protégés.

Dans le cadre du jumelage avec Takamatsu, une délégation a été reçue ce matin en mairie, avec les deux étudiants en villégiature depuis dix jours à Tours.

『市長表敬』

市長表敬ということで、再び市役所へ行ってきた。高松市の親善研修生という立場で、普通ではありえないような待遇で訪問させて頂いていることを改めて実感した。スーツにネクタイと、キッチリとした服装ということだったが、スーツケースの荷物の問題でジャケットを持っていけなかったので心配していた。しかし、それほど堅苦しい雰囲気ではなくフランクに迎え入れてくれたので良かった。高松市長と一緒に写真を撮ったが、トゥール市の市長はお忙しいのか撮影の際にはおられなかった。高松市長ともあまり話すことはできなかったが、また報告会があるので、その時に現地であった出来事を伝えたいと思う。

『ワイン畑』

『ワインカーブ』

見渡す限りワイン用のぶどう畑だった。まだ時期が来ていないようで、若い実が多かったのだが、食べてみるとそれなりに甘さがあった。

中は前衛芸術が多数飾ってあって、伝統的なワインカーブであるとは言いづらいが、見ている分には楽しかった。アルコールが苦手で、普段はあまり飲まないが、やはりフランスのワインは美味しく感じ、つい飲み過ぎて軽く酔っぱらってしまった。

8月28日（火） 買い物、学生宅訪問

『大型スーパーでショッピング』

この日はフリーだったので、買い物へと向かった。フランスの駄菓子など、お土産を購入し、肌寒い日があったので軽く羽織れるようなカーディガンを買った。フランスで買っただけでオシャレに見えるトリック。不思議だ。

現地の学生であるトーマ君宅へ訪問。マエル君とアリスちゃんがマジックザギャザリングというカードゲームをしていた。ボランティアで手伝ってくれた学生達はいわゆる“オタク”らしく、漫画やゲームの話で盛り上がることができた。やはりフランス内でもそれなりに人気があるのだろうか。

『将棋を楽しむ』

8月29日（水） 大劇場見学、セグウェイ、さよならパーティー

『大劇場見学』

香川県で劇団をやっている者として、このような劇場を見学できたのは、本当に感動的だった。前回の公演がファンタジーものだったので、こういう所でやれば、より一層役に入り込めるのではないかと、音響という立場から妄想していた。さらに、普通では入れない舞台裏や衣装室も覗け、ステージに上がれたのは感動的だった。フランスの劇場では、口笛を吹いたら火事だと間違え大騒ぎするから、そのような演出を入れることはない等、面白い話もたくさん聞けた。私たちの訪問後、演劇の敷居はそれほど高くないというPRイベントがあるらしく、行きたかったが、流石に日本からは遠いので残念ながら諦めた。

『セグウェイの旅』

セグウェイをやっていたので、せっかくなので乗ってみた。単純にセグウェイに乗ってみたかっただけだったのだが、裏路地を通り、お城を回って高台を回っていくというコースで、行けなかったところまで行くことができ、単純に観光としても優れたプログラムだった。特に細い裏路地を通っている時は、華やかな表通りとは違い落ち着いた雰囲気で、町の別の顔を見られたような気がした。

『さよならパーティー』

プログラムの最後の日ということで、関わった皆で夕食（ディネ）を共にした。デザートに出てきたチーズケーキが豆腐のようだと女性陣が大爆笑していたのが印象に残っている。日本語を喋るヴィヴィアンと、フランス在住の麗子さん、亮太さんと近い席に座っていたので、あまり使えなかったフランス語について色々教えてもらった。フランス語にお

ける Je veux/voudrais（～が欲しい、したい）のニュアンスの違いや、彼らの好きな言葉を教えてもらった。特に亮太さんの“Bon courage!!”（がんばれ!!）が気に行ったので、日本でも広めていきたいと思う。

8月30日（木） トゥール出発、パリ視察（エッフェル塔、凱旋門、シャンゼリゼ通り）

いつもの朝に比べ、この日の朝は肌寒く感じた。どんなに楽しい事だろうと、いつかは終わりが来る。色々とお世話になったホームステイ先の家族や協力してくれた方々に別れを告げ、トゥールを出発する日となった。駅には、両ホームステイ先の家族はもちろん、ガイドをしてくれたコーディネイターの伴さんや、初対面の僕らに親切にしてくれたボランティアの麗子さん、現地で仲良くなった学生達。色々な人達が見送りに来てくれた。こういう場ではいつも、また会う時の為に明るく別れる事にしている。いつか再会すると決めていれば、それは今生の別れではないのだから・・・

『出　発』

とは言っても悲しいものは悲しく、さらに宮本さんが泣いてしまったので自分の涙腺も悲鳴を上げていた。

パリに到着、こちらもやはり全てが美しく、散歩しているだけで観光になると感じたが、ここにたどり着くまでには大きな苦難があった。あまりにもバタバタしており、写真を撮れていないのでパリ市内の写真を代わりに貼っておく。

『パリ到着』

さて、その苦難であるが、それはTGVの中で感傷に浸っている間にやってきた。まず、予約していたはずの席に老夫婦が座っていたのである。オーバーブッキングを疑ったが、座っているのなら仕方がない。宮本さんと二人で廊下へと退散した。その後駅員がチケット確認をしに回ってきたところ、私たちのチケットを確認した途端困り顔になった。なんと、日付が一日ずれていたのだ。当然ホテルも一日ずれていた。

TGVのチケットも、なんとかその場で買え、ホテルも一部屋借りる事ができたのだが、1つしかベッドがなかったので床で寝る事となった。後で聞いた話によると、簡易ベッドの貸出を行っていることもあるらしい。

苦難はあれど、それも勉強。何があるか分からないのが人生である。今後の海外旅行の際に、対処できるスキルが少し上がったような気がした。

ホテルに荷物を預け、身軽な体で観光へと向かった。バス、徒歩、メトロと、交通手段は様々あるが、今回私達が最初に選んだのはメトロであった。微妙に上がっ

『地下鉄 ～メトロ～』

た対処スキルを信じ、私たちは意気揚々とメトロへと飛び乗った・・・！！と、行きたかったが、先程の苦難で神経質になった私は、ホテル内でメトロの乗り方やルートを検索し（ホテル内ではネットが使えた）、メモ帳に目的地近くの降り場を書き込んでメトロへと向かった。この手は非常に有効で、駅員らしき人物にメモを見せるだけで、乗り場へと誘導してくれた。

また、メトロ内では10枚つづりの回数券が売っており、それを使用することで料金を少し安く済ませることができた。

『エッフェル塔』

昼食を食べ終わり、徐々に眠くなってきた午後2時ごろである。空は明るく、エッフェル塔のふもとでは芝生に寝転がり昼寝を楽しむファミリーやカップルの姿があった。僕らもそれに混ざり、惰眠を貪りたい衝動に駆られたが、田舎者根性で『せっかくパリまで来たのに、眠って過ごすなんて勿体無い!!』と判断し、観光スポットを楽しんだ。

パリ屈指の観光スポットであるエッフェル塔。この頃は空も青く、展望台に登ればパリを一望できるのではないかと思った。しかし流石は人気スポット、登る為には、100人どころではない人数を待たなければならなかった。時間には限りがあるので、登るのは諦めて次へと向かう事にした。

『エッフェル塔と私』

次はパリ屈指の観光名所、凱旋門へと来た。日本では、このエトワール凱旋門の事のみを指して凱旋門と言うらしいが、実際はパリ内だけでも凱旋門は複数個存在するらしい。

また、4つの支柱には、それぞれ別の彫刻が施されてあり、「出発」、「勝利」、「抵抗」、「平和」の意味が込められているらしい。なかなか抽象的な彫刻だったので判別がむずかしかったので、行くのであればどれがどれか当ててみてもらいたい。

『凱旋門』

こっちは10ユーロで登れ、それほど待ち時間もなさそうなので登ることにした。360度見渡す事ができ、エトワール（星）の名のごとく、凱旋門を中心に大通りが放射状に延びていた。方向によって、近代的なビルが立ち並ぶ景色や、エッフェル塔などの観光名所を見る事もできた。だんだん雲行が怪しくなり始めていた。

『凱旋門屋上から』

嫌な予感は的中。見事に雨に降られる事となる。トゥール市にいた頃は雨の被害を受ける事がほとんどなかったので、雨具を持ち歩いていなかった。天気予報なんかは、フランス語でも直感的に理解できそうな

ので、確認しておけば良かった。

雨を気にせず歩き回り、途中で雑貨、食品、アクセサリー等、お土産によさそうな店舗の集中した一角を見つける。全体的な雰囲気は、ショッピングモール内のお洒落な雑貨屋や輸入食品店といったところか。手持ちも少ないので、自分は冷やかすだけに留めておいたが、宮本さんはPARISと書かれたマグカップを買っていたと思う。

『シャンゼリゼ通り　ルノーのショールーム』

雨宿りに入ったフランスのカーブランドであるルノーの展示場では、謎の子供達に写真を撮って撮ってとせがまれた。押し売り商法には気をつけろと言われていたが、流石に“僕達の写真がお土産さ!!10ユーロね!!”なんて事はないと思い、撮ってあげる事にした。やはり、ただ単にノリのいい子供達なだけだった。どこにでも似たようなテンションの子供はいる。彼らと謎の握手をかわす。もう雨は止んでいた。

8月31日（金）　ルーブル美術館、チュイルリー公園、オペラ座、ムーランルージュ

『ルーヴル美術館』

一日増えたおかげで行く事のできたルーヴル美術館。カッコ付けてはいるが、シャツの裾がズボンに入ってしまっている。それはともかく、誰もが聞いた事のあるこのルーヴル美術館。世界最大級の美術館なだけあって、全て見て回るにはかなりの時間が必要だと聞いた。なので、モナリザやミロのヴィーナス等、有名どころを見て回ることにした。

ともかく、外観を見られただけでも感激した私たちだが、入らない事にはその作品群を見る事はできない。開館時間前に来たと言うのに、正面のピラミッドから入る中央入口は、まるでパチンコ待ちのオジサン集団のように混んでいた。私たちは、前日に麗子さんより地下街からの入り口の存在を聞いていたので、言われた通りにそちらを目指した。

こちらは並ぶ事なく、すんなり入ることができた。ここで券売機があったのでチケットを買う。最終日に現金を全て使い切るつもりでいたので、手持ちが少なくクレジットカードで購入することとなった。何が起こるか分からないので、次に海外旅行へ行く時はもう少し多めに持っていこうと心に決めた。

国内での美術館と同じく静かで厳粛なイメージを持っていたのだが、入口の係員がペチャクチャ喋っていた。そういえばスーパーマーケットでもレジ店員同士が喋っていたので、日本とは勤務の感覚が違うのだろうかと疑問に思いつつ入館した。

絵画を見て印象に残ったのだが、日本の教科書に載っているような芸術の大作は、その名の通りとにかく大きかった。中には私の部屋の２倍以上あるような作品もあり、芸術が分からない私でも、そ

の大きさと存在感に圧倒された。感覚でしか芸術の良さを語れないので陳腐な表現になるが、この圧倒的な大きさ、描かれた人物の微妙な表情が読みとれる精密さ、これらの芸術品は“凄い”の一言に尽きた。

世界でも名高い芸術品たちを鑑賞してきた後は、鶏肉とレタスの入ったパニーニと、オランジーナを持ってチュイルリー公園へと昼食に向かった。私たちが美術館を見ている時は天気が崩れ、ひどく肌寒い陽気だったらしい。だが、写真でも分かるように昼食時には青空が広がり、眩しいくらいの太陽が差していた。そのまま公園に設置されたベンチに座り、パニーニを頬張る。パリに住んでる人達は、いつもこんな休日を過ごしているのだろうか。

『チュイルリー公園』

『ムーラン・ルージュ』

時は変わって夜、世界屈指のナイトショーを提供するムーラン・ルージュへとやって来た。ここ周辺は若干治安が悪く、本来ならば諦めていたところだが、ボランティアの麗子さんがガイドとバス送迎付きのツアーを教えてくれたので、観劇に来ることができた。

到着したら既に長蛇の列ができており、名高いショーなだけあって、国籍もバラバラだったがその熱気が伝わって来た。また、全体的に女性の方が多いように感じた。

ショーが始まると、厳しい審査を抜けたダンサー達のミュージカルや、ギネス記録保持者のジャグリング、パントマイム等、飽きる間もなく次々と演目が開始された。

パントマイムが始まると、マイム師がステージを降り、こちらへ近づいてくる。ボールを渡され、なにかと思えばステージに上れというのだ。この時は日本人２人と、国籍は分からないが外国人の男女、計４人がステージへと上がった。

日本人の女性が映画監督に扮し、残された３人は役者という体でショーは始められ、マイム師の考える台本でパントマイムをさせられた。始めは戸惑ったが、日本では劇団に所属しており、音響という立場ながら何度か舞台上にも上がった事があるので、飛んだり跳ねたりと楽しみながら役者役ができたと思う。女性にバラの花を渡す演技の時に回転しながら渡したら、最前列の女性が「ヒェアッフィ!!」と爆笑してくれたのが印象的だ。800 人の外国人の前、スポットライトを浴びながら舞台を降りるのは、さながら芸能人になった気分で、色んな国籍の人がグーサインや称賛の声をかけてくれたのが嬉しかった。

帰りはバスで、ペリフェリックというパリ市内最外周部を囲む環状道路を走り、夜のパリを眺めながら帰宅することができた。ホテルに到着する頃には、時刻が０時を回っており、パッキングを済ませ、興奮冷めやらぬままに就寝した。

9月1日（土） 帰国

親善研修も終わり、ついに帰国することとなった。ホテルのチェックアウトを済ませ、モンパルナス駅からバスでシャルル・ド・ゴール空港へと向かう。出国の時に感じた不安さはなくなり、飛行機搭乗までスムーズに済ませる事ができた。

『帰　国』

後日談

帰国した次の日、すぐに学校が始まった。久しぶりに会った友人は「雰囲気が変わった」、「アップグレードされた。」等と、口々にヨイショしてきた。劇団、カポエィラも同じような反応で、今回の研修は自分にとって確実にプラスになっていると感じた。

現地で交流した人達とはメール、Facebook 等で交流しており、メッセージの遣り取りなどを行っている。特に仲良くなったマエル君は、アイコンを私とのツーショット写真にしてくれているので、嬉しい限りである。

親善研修生　報告書Ⅱ

感想文

いつか、また会う日まで

香川高等専門学校　5年
塩田　誉宙

私の国際交流はカポエィラを中心に成り立っていた。だが、それは国内という狭い領域内においてのみで、あくまで日本に興味があり、日本にやって来ている人達との交流だった。そして今回、実際にフランスという異国の土地を訪問することで、新たな出会い、新たな発見を得て、私の国際交流は新たな一歩を大きく踏み出す事となった。

さて、今回最も仲良くなった人間というのはやはり、歳も近く音楽の趣味も合ったホームステイ先の次男、マエル君だ。ホームステイ先の夜では、よく彼と一緒に過ごした。フランス人の歌手でオススメを教えてもらったり、ドラゴンボールのパロディ漫画で笑ったり、とにかく色々な事をして遊んだ。当然、そんな彼からは多くの事を学ぶことができた。私が当然と思っている事は彼にとって意外で、彼が普段通りにやっている事は私に新鮮な刺激を与えてくれた。例えば、私たちは毎晩湯船に浸かるが、彼らは基本シャワーで済ませてしまう。また、彼らは親しい人達と別れる時は男女問わず、まるで恋人かのような挨拶をして別れる。あれがどうにも慣れず、いつまでたってもぎこちないままだった。積極性に圧倒的な差があるとまでは言わないが、そういった挨拶がなかったからこそ、日本人は欧米に比べて消極的なのだろうか。見習って行きたいものだ。

また、実際にフランスに行ってみて思ったことが、目に入ってくるモノ全ての美しさだ。都市の方ならば、ただ町を歩いているだけで街並み全てが観光地なみの情緒を醸し出しており、田舎の方だったとしても、その広大な土地を車の助手席から眺めているだけで映画の主人公になったような気分になれる。訪問した先は市役所ですら王宮のようで、その美しさにフランスへの移住を考えさせられる程だった。

フランスの言語を学ぶ中で、関門としてその発音が考えられる。分かりやすく言えば痰をからめるような感じの発音だ。現地の学生から早口言葉を教えてもらったので、練習してみたいと思う。ホスト先のマダムがフランス語勉強のテキストを買ってくれたので、モチベーションは十分である。

いつになるかは分からないが、必ず、再びフランスの地を踏むと心に誓っている。それまでにフランス語を学び、フランスの言葉で、今回の感謝を直接伝えたいと考えている。今回お世話になった方々とは、メールやFacebookを使って、フランスから遠く離れた日本からでも交流することはできる。だが、それらのツールでは声を欠き、表情を欠き、完全な気持ちが伝わらない。五感を使い、直接会って伝えることが重要だと私は思う。だから、それまで待っていてほしい。そう、また会う日まで。